

色ベタ (流用)
or
スミベタ35³¹
↑
28³¹

岸本 直隆

KISHIMOTO, Naotaka

新潟大学大学院 医歯学総合研究科
歯科麻酔学分野

兵庫県出身

大阪歯科大学・2006年卒業

＜所有資格＞

日本歯科麻酔学会 認定医 / 歯科麻酔専門医 / 歯科麻酔指導医 / 日本障害者歯科学会 認定医 / 日本再生医療学会 再生医療認定医 / 日本抗加齢医学会 専門医

■座右の銘

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」
山本五十六 (新潟県長岡市出身) のことは
仕事と子育ての両方で教育に関ることが多く、人を育てるうえで常に心に留めておきたいことばである。

■医療に関する特技

シミュレーション教育

■これからの目標

超高齢社会を迎え、さまざまな基礎疾患を有する患者が歯科診療所を訪れるが、患者急変時に迅速かつ適切に対応できる歯科医療従事者は少ない。歯科麻酔科医としての専門性を生かし、歯科医師・歯科衛生士を対象とした患者急変対応教育を充実させるべく教育活動を続けていきたい。具体的には、日本歯科麻酔学会と共同で急変対応を指導できる仲間(歯科麻酔科医)を育て、全国の歯科診療所のスタッフ向けにわれわれが開発した急変対応シミュレーションを広く提供することで、日本の歯科医療の安全性向上に寄与したいと考えている。

■message

私はキャリアを考える際に常にニッチな領域を選択した結果、現在のポジション獲得につながったと感じています。例えば歯科の中で歯科麻酔を選択する人は少数であり、また歯科麻酔の中で教育を専門に活動する人はまれです。これは人と違う方向を好む元来の性格が影響しているのかもしれませんが、人が少ない領域であれば自身がその道の第一人者となるのが比較的容易で、キャリア形成に有利に働くこともあると思います。もしキャリアに迷った際は「ニッチな領域」を選択してみるのはいかがでしょうか。

歯科専門医を取得して、さてこれからどうしよう。
サブスペシャリティ? 研究? 麻酔は楽しいし、どれもやってみたい。
結婚や出産はどうしよう?
先輩たちは、どうしてきたんだろう…?

みんなのプロフィール帳

◆ 医師を志した動機 ◆

祖父と父が歯科医師であり、自宅兼診療所に勤務していたため、幼少期から自然と歯科医師になりたいと思うようになっていた。

医学部卒業からこれまでの歩み

1年目 (2006年): 小松病院 歯科・口腔外科 臨床研修歯科医

病院歯科のため、一般歯科診療に加え、口腔外科手術や障がい者の全身麻酔下歯科治療にも従事することができ、充実した研修期間を過ごす。

2年目 (2007年): 大阪歯科大学大学院 歯学研究科 博士課程 歯科麻酔学専攻 入学
学生時代に見学した静脈内鎮静下での歯科治療に感銘を受け、このスキルを身に付けば自分が診れる患者の幅が広がるの思いから母校の歯科麻酔学講座に入局。大学院生として歯科再生医療の研究に従事することとなり、このテーマが後のキャリアに大きな影響を与えることになる。

3年目 (2008年): 大阪厚生年金病院 (現 JCHO 大阪病院) 麻酔科

週4日、医科麻酔研修を受ける機会を得た。整形外科、乳腺外科、耳鼻科、形成外科などを中心に非常に多くの麻酔症例を経験し、知識とスキルの上達を実感できた。

5年目 (2010年): 日本歯科麻酔学会 認定医 首席合格、松田学術奨励賞 受賞
受賞をきっかけに、歯科麻酔科医として大学でのキャリアを目指そうと考え始めた。

6年目 (2011年): 博士 (歯学) 取得

脱分化脂肪細胞を用いた骨組織再生の研究により博士の学位を取得した。

7年目 (2012年): 大阪歯科大学 歯科麻酔学講座

大学教員として臨床に従事する中、歯科麻酔学教育の study group 「AneStem (アネステム)」を立ち上げ、歯科医療従事者に対する患者急変対応の教育、および新しい教育法の開発を目指した研究を開始した。

8年目 (2013年): 歯科麻酔専門医、日本障害者歯科学会 認定医 取得

障がい者の歯科治療における全身麻酔を数多く経験していたことから、日本障害者歯科学会の資格も取得できた。

10年目 (2015年): 再生医療認定医 取得

11年目 (2016年): 米国心臓協会 (AHA) BLS コースで出会った妻 (看護師) と結婚。
その後、夫婦で数年間、BLS インストラクターとして蘇生教育に従事した。

12年目 (2017年): 日本抗加齢医学会 専門医 取得, McGill University Faculty of Dentistry へ留学

歯科再生医療で有名な McGill University (カナダ) の Dr. Simon Tran の研究室へ留学の機会を得た。大学院生時代、麻酔関連ではなく再生医療をテーマとしたことがこの留学につながった。現地で Guillain-Barre 症候群を発症し、ICU に入院するなど大変な事態に陥ったが、妻と現地の日本人コミュニティのサポートでなんとか1年間の留学を終えることができた。

13年目 (2018年): 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 歯科麻酔学分野

これまであまり経験してこなかった小児麻酔やペインクリニックの症例を多数経験することができ、歯科麻酔科医として臨床の幅が広がった。

17年目 (2022年): McGill University Faculty of Dentistry へ再び留学

科研費 (国際共同研究強化) に採択され、2017年と同じく McGill University へ留学した。今回は妻と2人の息子とともにカナダに滞在し、家族で楽しい思い出をたくさん作ることができた。子どもたちは現地のデイケアに通うことで、兄弟でも英語で会話するようになり、子どもの順応の速さに驚かされた。

18年目 (2023年): 早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科 通信教育課程 入学
study group で提供している教育コンテンツの充実と新しい教育法の開発を加速させるため、教育学や教育心理学を学びたいと考え、早稲田大学にて履修を開始した。

20年目 (2025年): 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 歯科麻酔学分野 教授, 日本歯科麻酔学会 歯科麻酔指導医 取得

第3代の教授として歯科麻酔学分野を担当することとなった。私生活では双子が誕生し、4男1女の父親として、仕事と子育てに現在も奔走中である。